

切花の市場品質調査法の改善

河野恵伸 (九州農業試験場)

Yoshinobu KONO : A Way of Survey to Understand Required Quality for Cut Flowers

1. はじめに

九州農業研究第57号に「切花の市場品質調査法」として掲載したが、手法としては不十分なものであった。そこで実際に産地の営農指導、販売の担当者が利用できるようにその手順を整理した。本調査法は、市場品質の品質評価要素の抽出、仲卸業者・小売業者と農家の品質評価要素の重視度、他産地との評価の比較から、品質改善上の問題点を把握できるものであり、品質改善技術を選択する場合の意志決定を支援するものである。

なお主な改善点は、①品質階層図の作成手順、②品質改善上の問題点の抽出法、③品質改善技術の選択のところである。①にはCBS法を新たに採用し、②③には品質機能展開の品質表を利用している。

2. 調査法の手順

1) 品質階層図の作成：市場品質を把握するためには、様々な品質の構成要素を整理し、その中から適切な品質評価要素を抽出する必要がある。まず、卸売業者や小売業者からのクレームや要望、関係雑誌等の既存の文献、記事を参考にしながら5～8名で品質をテーマとしたブレインストーミングを行う。このとき出された品質構成要素を1つ1つカードに記入する。次に類似の内容のカードをまとめることと、重要でないカードを削除し、品質構成要素を整理する。要素がある程度絞れた段階で、実際に出荷している卸売市場の担当者等に聴取調査を実施し、品質評価要素を確定する。そして、抽出された品質評価要素を階層化して品質階層図を作成する。その際、同一階層内の要素をなるべく2～4に集約することが必要である。

2) 品質改善上の問題点の抽出：以上で求めた品質評価要素および品質階層図を基に、2種類のアンケートを実施する。アンケートの対象者は、当該産地が中心的に出荷している卸売市場の仲卸業者・小売業者である。アンケートの1つは各品質評価要素について、出荷時期の競合するいくつかの目標産地と当該産地を評定法によって評価してもらうものである。もう1つのアンケートは、各品質評価要素について対比較で重視する程度を聞くAHP法によるものである。また、AHP法によるアンケートは農家に対しても実施する。このアンケート結果から各品質評価要素の重視度を計算するが、その計算には市販のAHP法のプログラムを利用することができる。

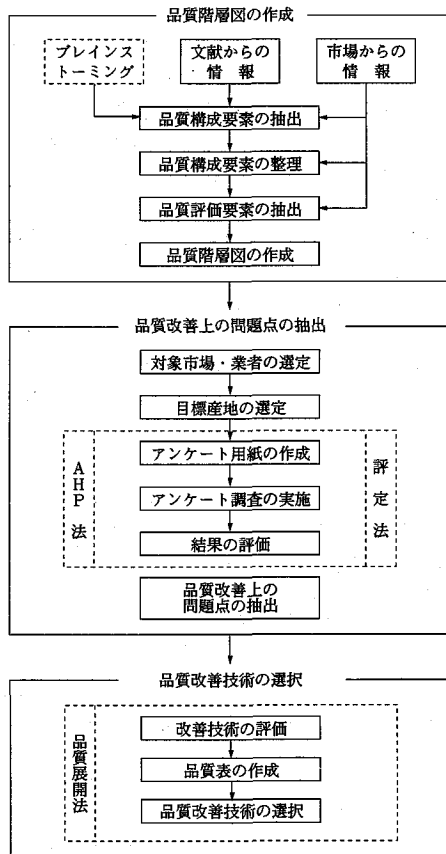
この仲卸業者・小売業者の重視度の平均と農家の重視度の平均を比較し、仲卸業者・小売業者は重視しているが、農家の重視度が低い要素を抽出する。また、評定法

によって求めた当該産地の評価値を他の産地と比較し、評価の低い要素を抽出する。上記の2つから抽出された要素の中で、両方ともに該当する要素が当該産地の品質改善上の問題点である。

3) 品質改善技術の選択：産地の営農指導、販売の担当で品質改善技術の効果、コストなどを評価し、前段階で抽出した仲卸業者の重視度、農家の重視度、産地の評価、産地の問題点と合せて品質表を作成する。この品質表を用いて品質改善技術の選択問題を検討する。

3. おわりに

品質表は改善技術を選択する場合の参考資料であり、産地の品質改善上の課題の把握や産地内での認識の統一はできるが、実際の改善技術を選択する場合には、導入コストや技術の難易性を十分に検討する必要がある。



第1図 市場品質調査の手順